

平成29年 病害虫防除指導情報 第6号  
作物名：小麦  
病害虫名：赤かび病

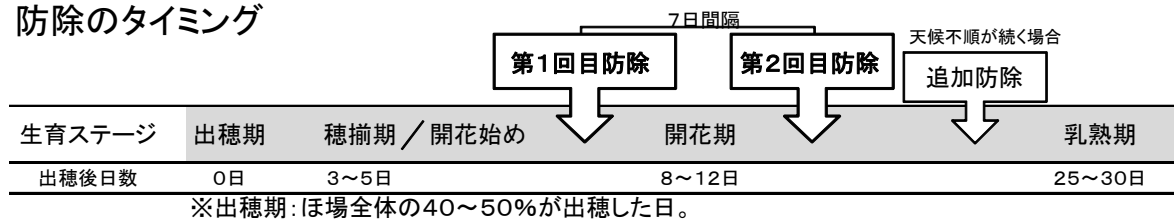
赤かび病の防除適期になっています。罹病粒混入による落等及びかび毒汚染の防止のため、適期防除に努めてください。また、曇雨天が続く場合は追加散布を行いましょう。

1. 防除対策

- (1) 赤かび病菌は開花から10日程度の間感染しやすいことから、開花始め～開花期に第1回目の防除を、その7日後に第2回目の防除を行う(下図参照)。また、最初の発病部から二次伝染するので、開花期の防除の後にも天候不順が続く場合は、追加防除を実施する。

防除薬剤については、県防除指針等を参考にする。

防除のタイミング



- (2) 適期防除を実施するため、地域やほ場ごとの出穂期及び開花状況の把握に努める。開花期は黒石市作況試験ほでは「ネバリゴシ」が5月24日、「キタカミコムギ」が5月26日で、平年より3～5日早かった。また、六戸町作況試験ほでは「ネバリゴシ」が5月26日と平年より4日早かった(下表参照)。このため、県内全域ですでに開花期に達し、散布適期となっている。

[作況試験ほにおける小麦の生育状況] (5月29日現在)

黒石市(農林総合研究所)

品種名	年次	出穂期	開花期
ネバリゴシ	本年	5/20	5/24
	前年	5/15	5/22
	平年	5/21	5/29
キタカミコムギ	本年	5/22	5/26
	前年	5/17	5/24
	平年	5/23	5/29

六戸町(野菜研究所)

品種名	年次	出穂期	開花期
ネバリゴシ	本年	5/18	5/26
	前年	5/16	5/24
	平年	5/22	5/30

注) 平年は、黒石市が11か年、六戸町が8か年の平均値。

## 2. 注意事項

- (1) ほ場の土壌水分が高いと、赤かび病が発生しやすくなるので、排水対策に努める。
- (2) チオファネートメチル剤(トップジンM水和剤等)は、耐性菌が出やすいので連用しない。
- (3) 紅色雪腐病が発生したほ場ではチオファネートメチル剤は使用しない。
- (4) アミスター20フロアブルは、かび毒の産生量を増加させた事例があるので、出穂後には使用しない。
- (5) 収穫にあたっては、事前に赤かび病の発生状況を把握し、本病の多発により罹病粒混入が懸念されるほ場では、発生のないほ場と仕分けして、収穫・乾燥を行う。
- (6) 刈り遅れは、かび毒の産生を助長する原因となることから、適期収穫を確実に行う。また、収穫した小麦は可能な限り速やかに乾燥する。
- (7) 共同乾燥施設においては、荷受け時に被害粒のチェックを行う。赤かび病の被害粒の混入が確認された場合は、別に乾燥調製を行う。

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください★

短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用してください。

農林水産省「農薬情報」 [http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)  
(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」  
[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

☆農薬散布時は農薬の飛散防止対策をしてください☆

学校、保育所、病院、公園等の公共施設内の植物、街路樹並びに住宅地に近接する農地(市民農園や家庭菜園を含む。)及び森林等において、農薬の飛散を原因とする住民や子ども等の健康被害が生じないように、飛散防止対策を徹底しましょう。

農薬の散布に当たっては、事前に周辺住民に対して、農薬使用の目的、散布日時、使用農薬の種類及び農薬使用者等の連絡先を幅広く周知するとともに、近辺に化学物質に敏感な人が居住していることを把握している場合には、十分配慮しましょう。

※この情報は、青森県農業情報サービスネットワーク「アップル農場：病害虫防除情報」(<http://www.applenet.jp>)に掲載していますので、ご活用ください。

《この情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所 TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900  
〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6 担当:佐藤、鎌田